

浮世絵にみる魑魅魍魎【古美術】



《名所江戸百景 王子装束桑の木 大晦日の狐火》初代歌川広重
—「浮世絵にみる魑魅魍魎」より—

■ 天神画像と文房具【前田育徳会尊經閣文庫分館】

■ 特別陳列 彩塑人形・紺谷力一躍動する生命—^{いのち}【近現代工芸】

■ 優品選【近現代絵画・彫刻】

■ 溶姫の婚礼調度【前田育徳会尊經閣文庫分館】

■ 岸派の絵画【古美術】

- 学芸室こぼれ話
- 3月の行事予定

- 友の会会員募集
- 企画展Topics 宗雪・相説

浮世絵にみる魑魅魍魎

2月8日(土)～3月20日(木・祝) 会期中無休

学芸員の眼

本文では月岡芳年を取り上げたので、こちらでは師匠の歌川国芳に注目してみよう。国芳は幕末の人気浮世絵師で、生粋の猫好きとしても知られています。猫を扱った作品を多数残しており、ここでは化け猫を描いた『日本駄右工門猫之古事』を紹介しします。画面中央の老婆をよく見ると、猫の耳が生えています。「猫石の精」と呼ばれる化け猫で、亡くなった女性に化けているのです。老婆が歌うと前方の2匹の猫が踊りだします。この2匹の猫はしっぽが裂けていることから、妖怪の猫又であることがわかります。妖怪ではありませんが、後ろ足で立ち上がり不器用ながらに踊る姿は、なんとも可愛らしいではありませんか。国芳の猫を見る優しいまなざしが目に浮かんでくるようです。



歌川国芳《日本駄右工門猫之古事》

本展に展示中の浮世絵24点のうち、3分の1以上を占める9点は月岡芳年『新形三十六怪撰』シリーズの作品です。今回はこちらをご紹介します。月岡芳年は幕末から明治にかけて活躍しました。12歳で当時人気の浮世絵師であった歌川国芳に入門し、22歳で本格的に画業をスタートさせました。『新形三十六怪撰』は最晩年の作として知られ、芳年はそのすべての出版を待たず亡くなりました。本作は日本や中国における妖怪譚を主題とし、妖怪そのものを直接描くだけでなく、登場人物の視線や水面にうつる影からその存在を暗示するところに面白みがあります。たとえば『大森彦七道中怪異に逢ふ図』は、一見すると道に迷った若い女性を大森彦七が案内しているように見えます。しかし、水面をよく見

てみれば、角をはやした鬼女の影が映っているではありませんか。若い女性の正体は鬼女だったのです。ちなみに、この鬼女は彦七が湊川の戦いで打ち倒した楠木正成の亡霊であり、彼の宝剣を奪いにやってきたとされています。本作において鬼女は、はっきりとわかる姿で描かれません。そのため画面内の様子は一見すると穏やかです。しかし、物語を知る人が見れば、その後の展開が予測でき、そこに張り詰めた緊迫感が読み取れたのでしよう。本展の作品解説では、典拠となるエピソードも簡単にご紹介しております。浮世絵のみならず、その背景にある物語も含めてお楽しみください。



月岡芳年《新形三十六怪撰 大森彦七道中怪異に逢ふ図》

近現代工芸(第5展示室)

特別陳列 彩塑人形・紺谷力

—躍動する^{いのち}生命—

2月8日(土)~3月20日(木・祝) 会期中無休

前田育徳会尊經閣文庫分館

天神画像と文房具

2月8日(土)~3月20日(木・祝) 会期中無休

「天神さま」といえば、学問の神さまとして知られています。毎年受験シーズンに、各地の天満宮にぎわう様子をご覧になった方もあることでしょう。それにちなんで本展示でも、天神画像に加えて前田家伝来の文房具を紹介しています。

東アジア文化圏において、文房具は単なる道具ではなく、持ち主の教養や美意識を表す宝物として貴ばれました。とくに筆、墨、硯、紙の四種は、文房四宝と呼ばれ重視されています。なかでも硯は、長く使用できることから銘を与えられることがありました。今回展示している4面の硯のうち3面も銘を持っています。そのうちの1面、《重玄硯》は、長方形の両面硯で、紫檀と一位の替蓋が附属しており、一位の蓋に

次のような墨書があります。

「重玄／一片石両玄心／松煙竹露泥古／研吟／黄檗 独立」

重玄とは極めて奥深いという意味です。以下の文意は「一つの石に二つの玄心、松煙と竹露がよくなじんでいる、と硯がうたう」といったところでしょうか。これを記した黄檗僧の独立・性易(1596~1672)は中国浙江省杭州の生まれで、医学や儒学を学び明朝に仕え、また書画篆刻をよくしたといいます。明滅亡後、長崎へ渡来し、黄檗宗萬福寺の開祖となる隠元隆琦(1592~1673)と出会い弟子となりました。

現在、日本伝統工芸展に出品される人形の多くは、木の芯に桐のおがくずと糊を混ぜてモデリングする、桐塑人形です。他には素焼きの陶胎(陶彫)人形や、紙を細かく砕いて糊と混ぜて作る紙塑人形も見かけますが、塑土による人形は、紺谷力作品以外にはありません。

紺谷は、粘土に植物の繊維を混ぜる漆喰を元に、現代の素材を合わせ、独自の素材を研究しました。漆喰は茶室などの壁に用いられますが、混ぜる繊維は藁よりも細く強い麻を主体に、作品によってはガラスファイバーや樹脂を加えたハイブリッドな組成です。

塑造彩色による制作を主体としていましたが、作品によって素材を使い分けています。今回の展示作

品「迦陵頻伽」と「韋駄天」などの3点は、張抜紙貼という技法が用いられています。これはまず粘土で作品の形を作り、石膏で型取りをします。この型の内側に和紙を貼り重ね、乾いたら型を外して胡粉を塗り、染めた和紙や絵具などで装飾するものです。いずれの作品も天上の存在を表しており、塑土よりも軽やかな素材である紙を選んだのでしょうか。

今回はご遺族からのご協力を得て、石川の伝統工芸展初受賞作「土の響」、同展特賞受賞作「散華」、日本伝統工芸展NHK会長賞受賞作「腰鼓遊楽」、などの代表作(いずれも塑造彩色)に加え、最後の日本伝統工芸展出品作である「瑞果献土」、さらに亡くなる直前まで制作していたという、修二会の僧を表した未完の作品を特別に展示します。



紺谷力《張抜紙貼「迦陵頻伽」》個人蔵



紺谷力《塑像彩色「散華」》個人蔵



《重玄硯》



一位の蓋

溶姫の婚礼調度

3月25日(火)～4月14日(月) 会期中無休

溶姫は第11代將軍・徳川家齊の二女で、加賀藩13代藩主・前田斉泰の正室として知られています。文政6年(1823年)4月に11歳で2才年上の斉泰と婚約し、文政10年(1827年)11月27日には、溶姫が江戸城から本郷の加賀藩邸へ移る「引き移り婚礼」が執り行われました。この際、使用された婚礼調度は1246点、長持だけで200棹近くにも及ぶとされ、その一部が現在も前田育徳会に所蔵されています。

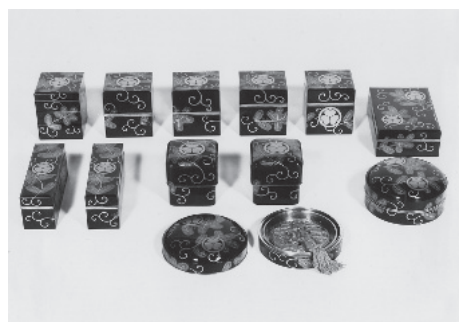
婚礼調度の中心をなすものに、厨子棚・黒棚・書棚の三棚があります。厨子棚は三棚の中で最も格が高いものとされ、拾貳手箱をはじめとして、化粧道具、香道具、文房具のすべてが揃って飾られました。今回は拾貳手箱のほか、香炉・香盆、「源氏物語」にまつわ

る文様をあしらった源氏箱、化粧道具の中でも櫛箱、払箱、眉作箱をご紹介します。

黒棚には、お歯黒道具をはじめとした化粧道具が載せられました。お歯黒に関連した道具として、歯黒箱、渡し金箱、耳盥、手拭掛を合わせて展示します。

溶姫の婚礼調度の書棚は、残念ながら伝わっていません。こちらには硯箱や料紙箱などの文房具のほか、手鑑や物語などの冊子や絵巻が飾られました。今回は硯箱、色紙箱、短冊箱に加え、書物を閲覧するときに使用する見台ご覧いただきます。

これらの婚礼調度は、日々の暮らしの中でも使用されてきました。展示をとおして、当時の生活を身近に感じ取っていただければ幸いです。



《葵紋蒔絵調度品 拾貳手箱》溶姫所用

優品選

2月8日(土)～3月20日(木・祝) 会期中無休

日本画分野では、春を予感させる作品の数々を展示します。中でも黒田櫻の園《お水送り神事》連作10点の一挙展示は令和になって初めてとなります。「お水送り神事」とは、3月12日に東大寺二月堂の若狹井からくみ上げられる「お水取り」に先立ち、3月2日に福井県の若狹神宮寺で行われる神事です。厳かな神事を墨色で空気感まであらわしています。

油彩画分野では、松下久信による北海道富良野を描くシリーズの一作《丘への道》を展示します。緑萌ゆる丘に伸びてゆく道が画面に動きを与え、縦筋の描線によって、雪解けの大地の柔らかな色彩がひろがります。この作品は、日展での2度目の特選作となりました。引き続き小特集「珠玉の個人コレクション」もお楽しみください。

版画分野でご紹介するのは、鳥や花はじめ、身近なものに温かいまなざしを向け絵のモチーフとしていた脇田和です。脇田が好んで描いたモチーフの一つに洋服があります。洋服へのこだわりや愛着、また、洋服のその持ち主である家族への愛情を感じさせるリトグラフ、並びにシルクスクリーン作品をご覧ください。

彫刻分野では山瀬晋吾《春の音1》をご紹介します。主に少年・少女をモチーフとし、ロマンあふれる夢の世界を追求してきた作者の、テラコッタによる胸像です。胸の前で手を組む女性の姿は、色合いやまとう雰囲気から春のうららかなさを想像することができそうです。



松下久信《丘への道》

第7展示室

第48回伝統九谷焼工芸展

3月7日(金)～3月16日(日) 会期中無休

◇連絡先

九谷焼技術保存会事務局
石川県九谷会館内
能美市泉台町南13番地
電話…076115710125

昭和51年に認定された石川県指定無形文化財保持団体九谷焼技術保存会が、技術保存・発展向上を図るための事業として毎年行っている公募展で、入選作並びに九谷焼技術保存会会員の作品を一堂のもとに展示します。

◇観覧料／大人…350円(280円)

大学生…280円(220円)

高校生以下無料

※()内は20名以上の団体料金。

当館友の会会員は、会員証の提示により団体料金になります。

古美術(第2展示室)

岸派の絵画

3月25日(火)～4月14日(月) 会期中無休

岸派は江戸時代中期から近代にかけて京都で活躍した絵画の流派の一つです。今回は、岸派の祖である岸駒、その息子の岸岱、娘婿の岸良を取り上げます。

岸駒(1749／1756～1838)は、生まれ年、出身地ともに謎の多い絵師です。出身地は金沢とも富山ともされますが、少年から青年期を金沢で過ごしました。上京後は、有栖川宮に見いだされて仕え、御所や公家などとのつながりを持ち、当地で活躍しました。本展では、石川県指定文化財《虎図》や同じく石川県指定文化財《伯陽図》をはじめ、繊細な筆使いで描かれた《兎福寿草図》など4点をご紹介します。

岸岱(1782／1785～1865)は、岸駒の長男として生まれ、父から絵の手ほどきを受けました。

岸派2代目として勢力を誇り、京都御所や金刀比羅宮(香川県)の襖絵を手がけました。岸駒と比べ、柔和で穏やかな作風が特徴です。今回は、琵琶湖南部の景色を描いた《近江八景図》をご覧ください。

岸良(1798～1852)は、早くから才能を認められたこともあり、岸駒の娘・貞と結婚し岸家の一員となりました。京都御所の襖絵や高野山西門院(和歌山県)に作品が残り、岸駒亡きあとの岸派を支えました。今回は雲間から姿をのぞかせる富士山を描いた《富嶽図》を、久しぶりに展示します。

岸駒、岸岱、岸良と岸派の絵師3人の作品を、一度にご覧いただける機会です。ぜひそれぞれの絵師の個性を感じてみてはいかがでしょうか。

第8・9展示室

'24 玄土社書展

3月14日(金)～3月16日(日) 会期中無休

玄土社の2024年中の歩みをまとめた創作(抽象)40点、古典臨摹(写し)17点をお目にかけます。玄土社創設者の表立雲が死去し早や4年が経とうとしております。私達は立雲の理念(自由な個性の發揮・忠実な古典の追体験)を胸に、今日も揺れることなく活動を続けています。特別展示として、玄土社古典臨書・仿書展―表立雲とその学友たち―を開催します。

◇入場無料

◇連絡先 玄土社本部(表)

金沢市本多町1-7-15
電話…076126313730



岸駒《兎福寿草図》

学芸室こぼれ話

日置樹也(学芸第一課学芸員)

「美(微)に入り細を穿つ」

昨年春に開催した企画展「脇田和と佐藤忠良」は私が当館で初めて関わった企画展でした。展示計画も立て、いよいよ展示準備。計画に沿って設置、ライティングを進めます。ある程度作業が進んだところで先輩学芸員から助言が。「作品を少し寄せてみよう」「もう少し照明を右へ」細かな調整ですが、確かにより良く見えることが分かりました。こうして調整を終えて開かれた展覧会。ありがたいことに多くのお客様からご好評をいただき、中には「作家が2人で空間を作ったのではと思うほどかみ合っていた」とのご感想も。ご好評いただけた喜びとともに、先輩学芸員たちの美しい展示空間を作るための感覚を身につけた、と思ったのでした。

野口明日香(普及課学芸主任)

「美術館の来し方行先」

今年度から美術館だよりの編集に携わるようになり、参考のため過去号を見返すことが幾度もあります。ご存じのとおり、展覧会情報はじめ美術館の活動にまつわる様々な内容が掲載されていて、読みふけては手が止まり、慌てて作業に戻っているのですが、毎月積み重ねられたこれまでの記事を眺めていると、過去に思いをめぐらせて、諸先輩方の汗(と涙?)が浮かんでくるような気持ちになります。

そんな熱気が紙面からも伝わってきそうな展覧会やイベントがいつか担当できたらいいなと思います、長距離走や山のぼりのようとも例えられる展覧会準備をこなすため、まずは「体が資本」と体力づくりにいそしんでいる今日この頃です。



美術館だより(新版)創刊号
昭和58年11月発行



「脇田和と佐藤忠良」展 展示風景

3月の行事予定

■土曜講座

①「美術雑誌『国華』から見る美術品の評価」

日時 3月1日(土) 13:30~15:00

講師 日置 樹也(学芸員)

②「美術史の見かたーディスクリプション入門ー」

日時 3月8日(土) 13:30~15:00

講師 中澤 菜見子(学芸主任)

いずれも会場は石川県立美術館講義室
聴講無料、申込不要

■映画上映会「百日紅〜Miss HOKUSAI〜」

日時 3月2日(日)

①10:20~12:00(開場10時)

②14:00~15:40(開場13時30分)

会場 石川県立美術館ホール

定員 各回200名

※友の会優先案内による事前の申し込みは受付終了
当日席あり(先着順、全席自由)

整理券を総合案内にて配布

(①9時30分~10時、②12時30分~13時)

参加無料

■のびのび鑑賞デー

作品について感じたこと、思ったことを、お話ししながらコレクション展を楽しめる日です。

会話を楽しみながら作品鑑賞をしたい方、小さなお子さま連れの方、美術館の静かな環境に不安を感じる方・気になる方も、ゆったりのにのびのびと安心してご覧いただけます。
※ただし、通常の開館日のお客様同士の会話を制限するものではありません。

日時 3月3日(月) 9:30~17:30

(展示室への入室は17:00まで)

会場 2階コレクション展示室

※のびのび鑑賞デーのご利用に、特別な手続きは不要です。

■対話で!作品鑑賞会

対話をしながら、作品鑑賞を行います。作品への知識はいりません。よく見て、おしゃべりしながら、ゆっくりと美術館で過ごしてみませんか?

日時 3月3日(月) 14:00~14:30 申込不要

集合場所 2階 コレクション展示室前

定員 10名程度(先着)

料金 要コレクション展観覧料

※友の会会員のみなさまは、会員証のご提示で無料

石川県立美術館友の会 会員募集！

令和7年3月1日(土)から受付開始！

今年は例年と異なり、3月中は郵便振替のみの受付となります。

来館での入会を希望される方は、4月1日(火)以降の手続きをお願いいたします。

現会員で継続を希望される方も、改めてお申し込み下さい。

1. 会 費 2,000円

2. 受付期間 郵便振替：3月1日(土)より

来 館：4月1日(火)より

3. 入会手続 次のA、Bいずれかの方法。

A 郵便局からのお申込み(3月1日(土)より)

*会員証は3月末発行の美術館だよりと共に郵送します

・申込方法：同封の払込取扱票に記入事項をご記入の上、郵便局(ゆうちょ銀行)で年会費をお振込みください

※払込手数料は申込者負担

※払込取扱票の受領証は、会員証が送付されるまで大切に保管してください

◇払込取扱票への記入事項

・郵便振替口座：00700-7-46490

・加入者名：石川県立美術館友の会

・通信欄記入事項：①会員の区別(継続・新規・元)および現在の会員番号、②年齢、③性別、④職業、⑤住所、⑥氏名、⑦電話番号

B 直接来館してのお申込み(4月1日(火)より)

*即日でのご入会が可能です

・場所：総合案内にお声掛けください

・受付時間：午前9時30分～午後5時(休館日を除く)

・申込方法：会費と入会申込書に必要事項を記入して提出ください

4. その他

・会員証の有効期限は、令和7年4月1日～令和8年3月31日です

・会員証の対象は記名者本人のみ有効(ご家族の方との連名受付はありません)

・一度納入された会費の返金はできません

・会員証紛失による再発行はできません

・3月中に次年度も継続して入会手続をされた方に、当館オリジナルポストカードをプレゼントいたします。ポストカードの絵柄を①古美術作品②工芸作品③近現代作品の3つのジャンルからお選びいただけます。ご希望のある方は「払込取扱票」の空欄に、希望するジャンルの番号を記入ください。

・今年度は払込取扱票のみのお届けとなっております。

会員の特典

●コレクション展無料(要会員証・会員本人のみ)

●主催企画展チケット2枚プレゼント

3回目以降は会員証の提示により団体割引料金

●同伴者の観覧料割引

会員証の提示により、主催企画展・コレクション展観覧料が団体割引料金(同伴者2名まで)

●提携館の主催展覧会割引(会員本人のみ)

石川県立歴史博物館、石川県七尾美術館、石川県輪島漆芸美術館、石川県九谷焼美術館、石川県能登島ガラス美術館、金沢21世紀美術館、脇田美術館の各館主催展覧会を割引。

●最新情報をお伝えする『石川県立美術館だより(本誌)』を毎月郵送でお届け

●会員限定イベントへのご招待

●館内カフェ「ル ミュゼ ドゥ アッシュ KANAZAWA」にてドリンクの割引(要会員証、会員本人のみ、平日のみ)

加賀につづいた琳派 宗雪・相説—宗達と光琳のあいだに—

企画展Topics

会期：令和7年4月26日(土)～5月25日(日)

会期中無休



重要美術品《秋草図屏風》(右隻) 尾形光琳 サントリー美術館蔵



重要文化財《秋草図屏風》(右隻) 依屋宗雪 東京国立博物館蔵
Image : TNM Image Archives



《月に秋草図屏風》(右隻) 伝 依屋宗達 出光美術館蔵 前期展示



《蓮池時絵厨子》厨子時絵：五十嵐作 東京国立博物館蔵
Image : TNM Image Archives



《桜芥子図襖》伝 依屋宗達 大田区立龍子記念館蔵

次回の展覧会

令和7年4月20日(日)
～5月25日(日)
会期中無休

前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室
特別展示 加賀の時絵と刀装具	「伊年印」の草花図と 五十嵐派の時絵
第3・4・6展示室	第5展示室
優品選	棚の美と調度

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)
大学生 290円(230円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金
3月3日は第1月曜日より
コレクション展示室無料の日

開館時間

午前9:30～午後5:30

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00

3月の休館日は
21日(金)～24日(月)

石川県立美術館だより
第497号(毎月発行)
2025年3月1日発行

〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <https://www.ishibi.pref.shikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。

KITEN SCHOOL

Try it!

オンライン講座あり

自宅でするデザインスクール

デザインスクールの無料体験をお試いただけます

デザインの学んでスキルアップ・副業・転職・独立・趣味等可能性を広げよう!!

大府高機市城北町1丁目14-17-501 TEL.072-668-3275 運営/株式会社ウィット

広告

憧れの在宅ワークもできちゃう♪

子育てママ・パパも

デザインで在宅ワーク♪